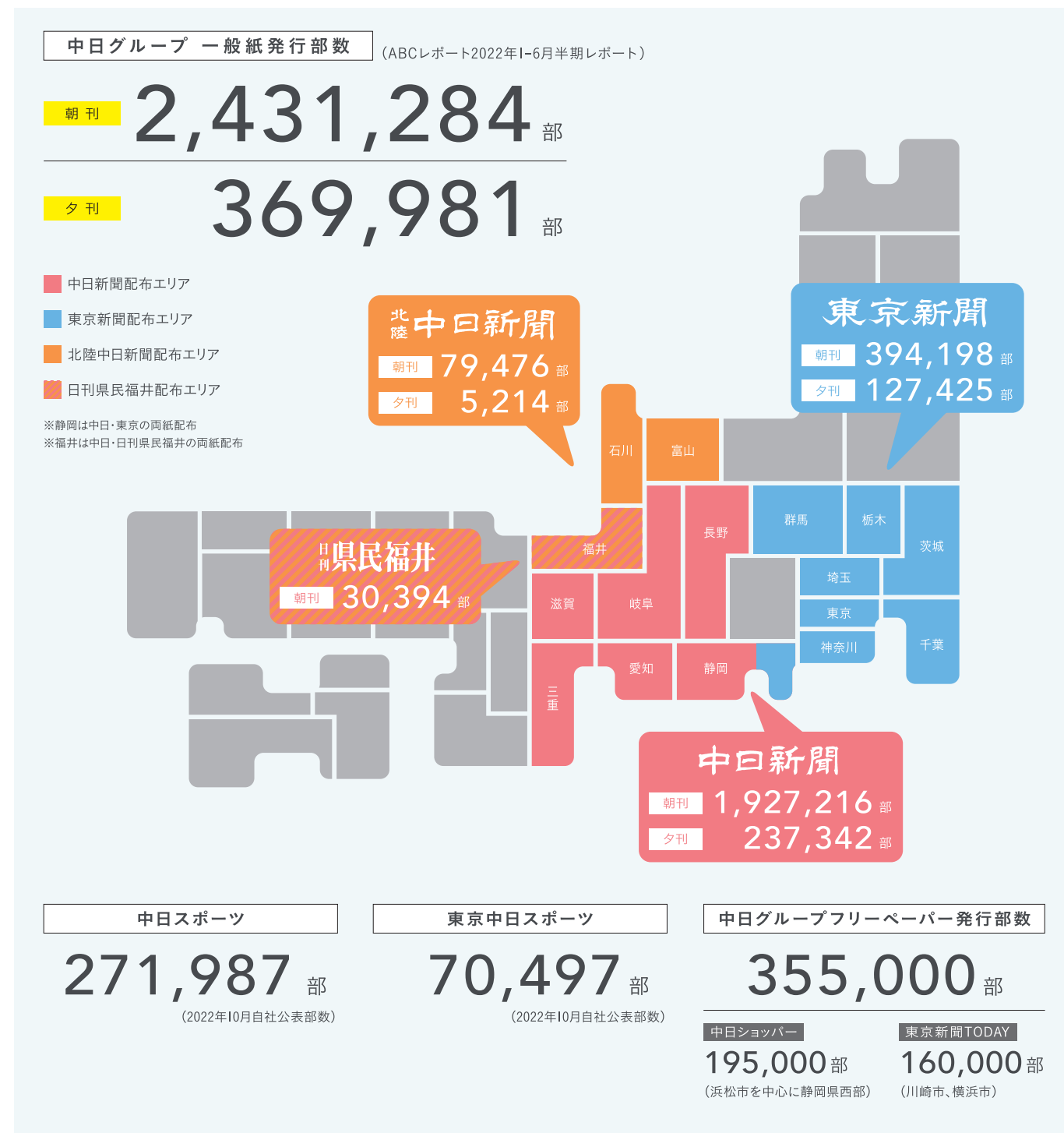




中日新聞社広告局		
名古屋本社	〒460-8511 名古屋市中区三の丸 1-6-1	TEL.052(221)0686
岐阜支社	〒500-8875 岐阜市柳ヶ瀬通 1-12	TEL.058(266)4791
東京本社	〒100-8505 東京都千代田区内幸町2-1-4	TEL.03(6910)2483
北陸本社	〒920-8573 金沢市駅西本町 2-12-30	TEL.076(233)4640
東海本社	〒435-8555 浜松市東区薬新町45	TEL.053(421)9118

福井支社	〒910-0005 福井市大手 3-1-8	TEL.0776(28)8606
大阪営業支社	〒530-0003 大阪市北区堂島2-1-43	TEL.06(6346)1115
中日ショッパー	〒435-8557 浜松市東区薬新町45 中日新聞東海本社内	TEL.053(421)9115
東京新聞TODAY	〒210-0006 川崎市川崎区砂子1-1-14 JTBC川崎共同ビル5F	TEL.044(245)5881

中日新聞
東京新聞

北陸中日新聞
日刊県民福井
中日スポーツ
東京中日スポーツ
中日こどもウィークリー
中日ショッパー
東京新聞TODAY

梅村学園創立100周年
中京大学開学70周年記念式典

今を輝く生徒・学生が主役
次の100年へ向けた思いを伝える
-梅村学園創立100周年記念特別紙面-

INTERVIEW
Kiyohide Umemura
梅村 清英 氏
学校法人梅村学園 総長・理事長
中京大学長

今を輝く生徒・学生が主役 次の100年へ向けた思いを伝える -梅村学園創立100周年記念特別紙面-

Interview

Kiyohide Umemura

梅村 清英 氏

学校法人梅村学園 総長・理事長
中京大学長

Hitoshi Koyama

小山 仁

中日新聞 名古屋本社
広告局 局長

1969年名古屋生まれ。91年中京大学経済学部卒業。96年同大学院経済学研究科博士後期課程単位取得。2005年博士(経済学)。中京大学経済学部助教授、同学部教授、同学部長、学校法人梅村学園理事長代理などを歴任。13年より学園理事長。16年同総長。21年4月より現職。



— 学園創立100周年おめでとうございます。貴学では早くから100周年に向けた機運の醸成に努め、講座や講演会、スポーツイベントなどの記念事業を実施するとともに、中日新聞にも3年前から100周年に向けた広告を出稿いただきました。現役の生徒・学生をモデルに使ったビジュアルには理事長の強い思いが込められていると伺いました。

理事長 毎年シリーズで広告を出し、学内的にも100周年への雰囲気づくりをしていくわけですから、今輝いている高校生・大学生に登場してもらうべきであろうと考えました。掲載のたびに企業や、学校・大学の関係者の方々をはじめ、プライベートでお付き合いのある皆さまからも多くのお声がけをいただきました。社会への反響の大きさからも新聞を使ったシリーズ広告はとても効果的だったと思っています。

— 新聞社も学生にもっと新聞を読んでもらいたい、距離を縮めてもらいたいので、こうした形で使っていただけるのはありがたいです。同世代の活躍がイメージ化された広告を見て学生が興味をもち、新聞の良さに気付いてもらいたいと思います。

理事長 情報発信の手段としてSNSやWEBなどのデジタル媒体を使うことは、時代に即した方法として非常に有効なことです。しかし新聞が伝える情報は信頼と実績に裏付けられた、ブランディングされたイメージをも読者に伝えることができるため、人の繋がりを大切にすることの地域では特に媒体として優れた発信力を持つといえるでしょう。新聞離れが進んでいるとはいえ、こうした繋がりによって

生徒・学生の目が新聞に向くことは学園としても嬉しく感じています。

— ありがとうございます。今回の紙面は記念式典に合わせるかたちで出稿していただきました。

理事長 記念式典に関しては5年の歳月をかけて検討を重ね、さまざまな側面から準備を進めてまいりました。当初は記念式典と祝賀会の2本柱で100周年を祝うことを考えていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響が色濃く残る中、祝賀会は現実的ではないとの考えから、その分、式典に力を入れることになりました。そこで最大限の感謝の気持ちを参加いただいた方々、これまでお世話になった皆さまにお伝えするにはどうすればよいか。それを考えたときに、今回の見開き30段の紙面を活用してメッセージを発信するのが効果的ではないかという思いにいたりしました。結果として、梅村学園のブランドをわかりやすく伝え、より広い層にイメージしてもらえたと思います。

— 記念式典では掲載紙面を増刷し、4000人の参加者に配布されました。裏面には100周年のスローガンである「ベストMAX」を体現する学生らのメッセージを掲載しましたが、どのような狙いがあったのでしょうか。

理事長 多様性に富んだ生徒・学生・卒業生の姿を発信していくことは非常に重要だと考えているからです。幅広い分野で活躍する卒業生、これから社会に出ていこうとする生徒・学生たちを知っていただく上で、いいかたちで展開できました。学問やスポーツ、自分の得意分野に注力する58



中日新聞 2023年1月1日朝刊 15段



中日新聞 2023年5月17日朝刊 30段

人のひたむきな思いを伝えられたのではないのでしょうか。

— 梅村学園では建学の精神である「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」をととても大事にし、目標とされていますね。

理事長 長く学園を牽引した私の父、梅村清弘が総合大学としてのイメージを強めたいと、スポーツ色を薄めようとした時期もありました。しかし、私はむしろ強化すべきだと考え、経営の一端を担うようになったときに父にお願いしたのは「スポーツの強化をもう1度やらせてほしい」ということでした。世間の皆さまは中京大学に対して「エネルギー」とか「タフ」などのイメージを抱いていらっしゃる。これはこれで重要なことだと思っています。教育の質に関しても、優秀な先生方が多く、教育力、研究力とともに飛躍的に向上しています。しっかりとした教育が幅広い分野で展開されている状況をもっと広く知っていただけたらと思います。

— 来年には中京大学が開学70周年を迎えます。また、学園も次の100年に向けてすでに動き出しました。今後の展望をお聞かせいただけますか。

理事長 創立100周年を新たなスタートと位置付け、その10年先の本学のあるべき姿を示すものとして長期ビジョン「UMEMURA VISION 2033」を定め、式典で公開しました。このビジョンは、学園が将来にわたり社会に求められる教育機関であるための方向性を示すものです。また、大学が70周年を迎えるにあたり大学の長期計画「NEXT10 2033」を策定することで、高校から大学へ至る一貫教育を強みとした「中



記念式典で配布した増し刷りの裏面「私のベストMAX」

京ブランド」を確立していければと思っています。

— 新聞社に対する思いやご要望があればお願いします。

理事長 愛知県・名古屋市では2026年にアジア・アジアパラ競技大会が予定され、本学も深く関わってまいります。新聞社には、ぜひ生徒・学生の取り組みにも焦点を当て、情報を細かく発信していただきたいです。またこのエリアの大学と連携しながら大会運営をバックアップし、今後のフロンティアケース、モデルケースにすることができればと思っています。生徒・学生は大会との関わりによってさまざまな体験ができるはずです。アジア・アジアパラ競技大会は学生と公的機関、民間企業と一緒に協働できる素晴らしいフィールドワークになるはずです。

— 私たち新聞社も一緒にやっていきたいと思っています。ありがとうございました。



CHUNICHI AREA ADVERTISING AWARD 2022

中日新聞 エリア広告賞 決定

今年で31回を迎えた中日新聞エリア広告賞に数多くの作品を応募していただき、ありがとうございました。今回は2022年4月1日から2023年3月31日までの間に愛知県、岐阜県、三重県、静岡県、滋賀県、長野県、福井県の合計7県からなる中日新聞地方版に掲載された企画広告の中から162点の応募をいただきました。その中から「暮らしに役立つ地域情報が得られる」、「社会性のあるテーマで提言性があり、地域文化の向上に役立つ」、「レイアウトが斬新で楽しさがある」を選考基準に選出いたしました。

今回の応募作品も、自治体などの周年企画に加えて、大河ドラマにちなんだ地域を盛り上げようとする企画、紙面だけではなくデジタルを組み合わせた企画、読者参加型のイベントや新しい社会制度を告知する企画など、新型コロナウイルスの影響などを感じさせない地方版ならではの企画が見受けられました。こうした読者のためになる、読者の心を明るくする企画を届けることが地元新聞社に与えられた役割であり、これらもご応募いただきました各広告会社様、ご出稿をいただきました広告主様のおかげと深く感謝しております。

引き続き、中日新聞地方版広告で地域を盛り上げ、地域に貢献できるよう取り組んでまいります。今後ともなお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(名古屋本社 広告局ビジネス開発部)

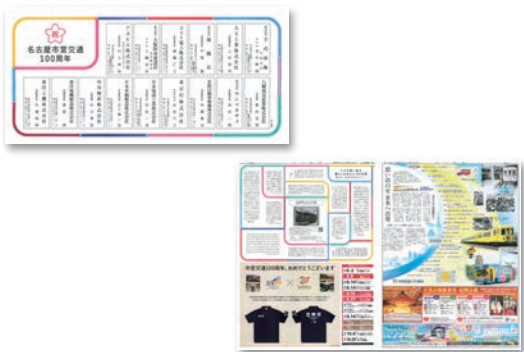
エリア広告大賞

名古屋市営交通100周年特集

市民版 2022/8/1(月)



(株)中日アド企画



[受賞広告会社コメント]

一世紀もの長きにわたり人と街をつなぎ、都市基盤を支えてきた名古屋市営交通の100周年を祝い、100年の歴史はもちろん、読者から寄せられた思い出エピソードを掲載。名古屋市交通局をはじめ、関連企業や各路線企業様の広告と連動した特集を構築しました。ARを活用した「デジタル写真展」を取り入れ、読むだけでは無い立体的な展開としました。

2022 中日新聞エリア広告賞入賞作品一覧

企画名		受賞広告会社
エリア広告大賞(全エリア対象)		
市内	名古屋市営交通100周年特集	(株)中日アド企画
市内の部		
最優秀賞	藤前干潟ラムサール条約登録20周年記念特集	(株)中日NEXT
優秀賞	名古屋市営地下鉄駅名変更企画	(株)中日アド企画
尾張の部		
最優秀賞	津島商工会議所創立60周年企画	(株)中日総合サービス
優秀賞	豊山町町制50周年記念特集	(株)中日アド企画
三河の部		
最優秀賞	家康街道企画	(株)一声社
優秀賞	岡崎商工会議所創立130周年	(株)中日アド企画 三河支社
岐阜の部		
最優秀賞	産後パパ育休制度特集	(株)中日アド企画 岐阜支社
優秀賞	本巣市役所竣工カウントダウン対談企画	(株)中日アド企画 岐阜支社
三重の部		
最優秀賞	オープンキャンパス特集	(株)中日アド企画 三重支社
優秀賞	ACTION38キャンペーン	(株)アド三愛
静岡の部		
最優秀賞	湖西市市制50周年特集	(株)中部日本広告社 浜松支社
優秀賞	食品ロス削減企画	(株)中日NEXT 浜松支社
滋賀・長野・福井の部		
最優秀賞	上松町町制施行100周年特集	(有)中日アド信州
優秀賞	滋賀県政150周年特集	(株)中日アド企画 滋賀営業所
奨励賞		
尾張・三河・岐阜・三重	家康をめぐる旅	(株)中日アド企画 三河支社
功労賞		
三河	のんほいパーク新聞	(株)折込広告社

最優秀賞

市内の部

藤前干潟ラムサール条約登録20周年記念特集

2022/9/27(火)

(株)中日NEXT



岐阜の部

産後パパ育休制度特集

2022/10/1(土)

(株)中日アド企画 岐阜支社



滋賀・長野・福井の部

上松町町制施行100周年特集

長野版 2022/11/3(木)

(有)中日アド信州



尾張の部

津島商工会議所創立60周年企画

2022/12/10(土)

(株)中日総合サービス



三重の部

オープンキャンパス特集

2022/6/2(木)

(株)中日アド企画 三重支社



三河の部

家康街道企画

2022/12/3(土)

(株)一声社



静岡の部

湖西市市制50周年特集

2022/5/14(土)

(株)中部日本広告社 浜松支社



2022
中日新聞エリア広告賞
入賞作品集

ご希望の方に差し上げます。
下記にお問い合わせください。

中日新聞名古屋本社
広告局ビジネス開発部

TEL.052-221-0483

読者が動く

読者を動かす 中日新聞グループのリソース

中日新聞社は地域に密着した情報発信を通して、読者との間に確かな信頼を築いてきました。その信頼は、中日新聞社が持つ様々な機能やサービスにも強く影響を与えています。いずれも新聞広告にプラスαの大きな効果をもたらす地域最強のコンテンツです。ターゲットや目的に応じて、中日新聞社の多彩なコンテンツをご活用ください。

921件の熱い思い出エピソード

バンテリンドームナゴヤ来場者1億人達成



中日新聞 2023年6月16日朝刊 半5段 中日スポーツ併載

2023年6月15日(木)にバンテリンドームナゴヤの来場者が1億人を達成しました。

1997年の開業以来、大きな節目となるこのタイミングを一緒に盛り上げるべく、広告紙面とWebをセットで提案しました。

達成翌日となる16日(金)の中日新聞朝刊でお礼広告の掲載、また中日新聞Web内に特設ページを制作し、読者から寄せられた「ドームでの思い出エピソード」を掲載しました。エピソードを募集するにあたって、中日新聞プラスアンケートメニューを使用。短い期間でしたが921件もの熱いメッセージが寄せられ、広告主も非常に喜んでくれました。紙面では掲載できる情報量や見せ方にどうしても限りがありますが、Webページでは集まったメッセージをアーカイブ化し、動きをつけたページデザインを用いて比較的自由な形で届けることができました。

今後も広告主にとって節目となるような機会、Webを上手く組み込みながら、読者からの思いも伝えられるような双方向の企画を提案していきたいと思っています。

名古屋本社 広告一部 岡庭 三佳 / スポーツ部 中嶋 秀和



中日スポーツ 2023年6月13日、14日、15日

カウント
ダウン
広告

2007年11月18日のドラゴンズ日本一！
継投完全試合、落合監督の胴上げ
from オレドラ

921件の
思い出エピソードが
寄せられました

なんとと言っても2007年11月1日のドラゴンズ日本一でしょう。話題にもなった継投完全試合、よくぞホームで決めてくれたと思います。落合監督の胴上げ、スタンドから投げ込まれた色とりどりの紙テープも印象的でした。

from オレドラさん (男性)

なんと言っても2007年11月1日のドラゴンズ日本一でしょう。話題にもなった継投完全試合、よくぞホームで決めてくれたと思います。落合監督の胴上げ、スタンドから投げ込まれた色とりどりの紙テープも印象的でした。

from オレドラさん (男性)

なんと言っても2007年11月1日のドラゴンズ日本一でしょう。話題にもなった継投完全試合、よくぞホームで決めてくれたと思います。落合監督の胴上げ、スタンドから投げ込まれた色とりどりの紙テープも印象的でした。

from オレドラさん (男性)

東京新聞140周年イベント

はじめての新聞ちぎり絵体験会

応募数
393名



東京新聞 2023年7月29日朝刊 15段

新聞ちぎり絵体験会 定員30名4回開催



東京新聞1階ロビーで「新聞ちぎり絵展」と
協賛社による販売会を開催



体験型イベント



編集機能



紙面工作



6月25日と29日に「はじめての新聞ちぎり絵体験会」を東京本社1階ホールで行いました。日頃から東京新聞では新聞ちぎり絵の下絵や読者からの投稿作品を掲載しています。こうした新聞ちぎり絵の輪を拡げ、新聞の新しい「見方」を読者に提案し、新聞を毎日めくる楽しさを習慣化して欲しい、また紙面を見て「自分もやってみたいけれど、作り方がわからない」という読者の「味方」となって、背中を押す機会になればと企画しました。両日とも午前と午後の部を設け、各回定員30名で募集したところ309件393名の応募を頂き、新聞ちぎり絵に対する関心の高さが伺えました。

先生の説明を聞いた参加者は、30分ほどは色選びやちぎるまでの工程に苦戦していましたが、一度コツを掴むとどんどん作り進めていました。初対面の参加者同士がお互いの作品を褒め合い、繋がる様子が印象的でした。「とても頭を使い、脳活ができた」、「いつか作品を投稿したい」、「新聞購読をやめられなくなりました」などの声を頂き、多くの参加者が完成度の高い作品を仕上げ、嬉しそうに持ち帰りました。

また体験会の開催に合わせ、本社1階ロビーでは新聞ちぎり絵作家・木村セツさんの作品や東京新聞読者からの投稿作品を展示しました。協賛社による物販も行い大盛況でした。

今後も脳活や人生100年時代の視点から新聞ちぎり絵を活用した企画を考えて行きたいと思っています。

東京本社 東京新聞140周年チームリーダー
広告一部 大上 歩



【参加者の声】 ※一部抜粋

●集中できるのがとても楽しかったです、上手い下手ではなく出来たことが。皆さんの作品に感心しました。自分の作品を楽しみたいと思いました。

●明日からの楽しみが増えました。年賀状に役に立ちます。絵心のない私でもできた、ありがとう!3歳、4歳でもでき、楽しめます。

●初めてで手も頭も固かったのですが先生はじめスタッフの皆さんのアドバイスにより楽しく作ることができました、ありがとうございました。

●長年、愛読している東京新聞を訪問できてよかったです。

2023 MARKET IN

— 東海のナンバーワン & オンリーワン —

大河ドラマ「どうする家康」放映で注目を集める愛知・静岡

愛知・静岡の両県で約1千億円以上の経済波及効果

家康公ゆかりの地 愛知・静岡

大河ドラマ「どうする家康」放映により、家康公ゆかりの各地では大河ドラマ館が設置され、多くの人々が訪れ賑わいをみせている。愛知県岡崎市は「生誕の地・三河平定」、静岡県浜松市は「出世の街」、静岡県静岡市は「幼少期・五カ国統治時代・大御所時代」の舞台となっている。また、行政区域を越えて地域の魅力をつなげる広域連携プロジェクト「三河・遠州・家康街道」も実施され、鉄道や自家用車によるアプローチの良さを活かした「家康公苦難と躍進の半生」を巡る周遊コースやツアー商品が提案されている。

観光消費行動からみる愛知県・静岡県の特徴

新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、日本人国内旅行の消費額(全国値)は、2019年比で日帰り旅行、宿泊旅行ともに大幅に減少したが、2022年は回復基調にある。

また、調査手法や調査時期の違いに留意を必要とするが、愛知県・静岡県におけるコロナ禍前の1人当たり旅行支出は静岡県が愛知県を上回っている。特に県内客(宿泊旅行)、県外客(日帰り旅行)の差が大きく、各県の特徴が表れていると言えよう。

大河ドラマの放映等に伴う愛知・静岡への経済波及効果

名古屋観光コンベンションビューローと三菱UFJリサーチ & コンサルティングによる共同研究の推計方法を参考に、静岡県内への経済波及効果を独自に試算した。その結果、2023年の1年間で静岡県内には約835億円の経済波及効果が見込まれ、前出の共同研究の試算結果と合算すると、愛知・静岡の両県への経済波及効果は約1千億円以上に達すると想定される。

大河ドラマの放映は当地を知るきっかけの1つに過ぎないが、地域の資源、歴史、文化、人とのふれあいを通じて当地のファンの増加を期待したい。また、東海地域にお住まいの方にも、世代を越えて地元に対する興味や関心が高まることを願う。

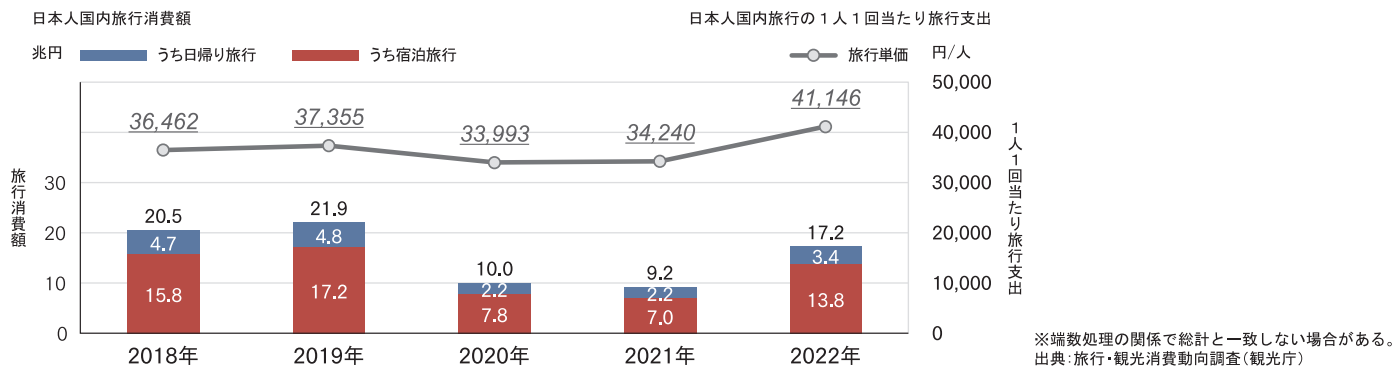
右近 崇

うこん たかし

三菱UFJリサーチ&コンサルティング
政策研究事業本部 研究開発第1部(名古屋)
主任研究員



図表1 ■日本人国内旅行消費の動向



図表2 ■1人当たり旅行支出(愛知県・静岡県)

	県内客		県外客	
	宿泊旅行	日帰り旅行	宿泊旅行	日帰り旅行
愛知県(2019暦年)	15,170	3,163	27,486	4,862
静岡県(2019年度)	22,195	3,498	31,520	9,060
愛知県を1とした静岡県の比	1.46	1.11	1.15	1.86

出典：【愛知県】共通基準による観光入込客統計(観光庁)
【静岡県】令和元年度静岡県における観光の流動実態と満足度調査(静岡県)

図表3 ■大河ドラマ放映等に伴う経済波及効果

	愛知県	静岡県(独自試算)	参考：単純計
総合効果(生産誘発額)	393	835	1,228
直接効果	255	568	823
第1次間接波及効果	89	163	253
第2次間接波及効果	49	104	153

※端数処理の関係で総計と内訳が一致しないことがある。
※各県の地域内産業連関表に基づく経済波及効果分析ツールを用いて個別に算出したものであり、「単純計」は参考値として掲載。
出典：【愛知県】名古屋観光コンベンションビューローと三菱UFJリサーチ&コンサルティングによる共同研究(2022年12月14日)
【静岡県】平成27年静岡県産業連関表に基づく「経済波及効果分析ソフト(一般波及108部門)」(静岡県)を用いて、本稿にて独自に試算。

探訪記

東海エリア

エピソード

文・写真／増田 幸弘(編集者)



人を大切にする社会へ

本欄は2001年6月、「東京人のナゴヤ考証学」というタイトルではじまった。いまとなつては「東京人」という言葉に気恥ずかしさを感じないでもないのだが、名古屋を中心とした愛知周辺的话题を他県出身者ならではの好奇心から「考証」するのが企画の主旨だった。

四半世紀あまりの移り変わりを振り返れば、驚きにあふれる。「名古屋めし」が気づけばすっかり全国区になり、コメダ珈琲店や世界の山ちゃんが各地にできた。天むすも広まった。西尾市にある町の薬屋さんだったスギ薬局はいまや有数のドラッグストアチェーンにまでなった。バブル崩壊後、「失われた30年」と言われる不景気がつづくのをもとめないこの地域の強みはなんなのか、経済誌でもたびたびテーマにされているが、一度親しくなると家族のように関係を大切にするとところにあるのではないかとしみじみ感じている。

2006年4月からは「東海エリア探訪記」というタイトルにして、まずは岐阜を回り、さらに三重を回った。実はこのときから私は家族と海外に移り住み、日本に行つては取材を重ねてきた。外国人の目線で日本の変化を見つめることで、風変わりなルポルタージュが実現できたのではないだろうか。

岐阜と三重の人びとが紡ぎ出す風景は、宝箱を覗き込んでいるようで、見慣れた日常が輝いて見えた。1980年代の半ばごろまで、東京と地方には外国に行くくらい大きなちがいがあった。言葉がちがえば人当たりも食事大きくちがった。商店街に建ち並ぶ店にもずいぶん地方色があつた。スマホでどこにいても情報を検索できる時代、つい口コミを見てしまうが、鼻を利かせ、勘に頼って探すほうがいまだっておもしろい出会いはある。

岐阜では「山の民」ならではの気質を感じる場面が多く、山間でかろうじて受け継がれる職人仕事に触れるたび、かつて「Made in Japan」を世界一にした者たちの矜持を垣間見た。腕を買われ、名だたる銘柄をOEMとして生産委託されても、やはり自社ブランドがいちばん力が入ると屈託なく

胸を張る職人の姿が目焼き付いている。

海あり山ありの三重には千葉の房総とよく似た気質を感じた。両者をつなげるのが黒潮で、実際、黒潮に乗って古くから行き来があり、同じ地名がある。本欄で紹介した暮らし方や働き方の事例は、そんな人とのつながりから出会ったものだ。取材に通いながら「コミュ障」などところがある私でも、三重なら心地よく暮らせると思ったほどである。

私と東京新聞(中日新聞)との関わりは1980年代半ば、大学生のときに広告局の整理部でアルバイトをしたのがきっかけだった。そのころ社屋は品川の港南口にあったのだが、再開発されて「洗練された街並み」と言われているのが信じられないほど鄙びていて、長く暗い地下通路を歩いた先に小さな駅舎があり、駅前ロータリーには大きな木が茂っていた。

私の仕事は「送りの確認」と言い、広告原稿が予定通りか代理店に電話したうえ、原稿が揃ったかをチェックすることだった。紙焼きとフィルムのほか、まだ活版もあった。原稿は代理店の方がもってきてくれるが、大口には取りに出向いた。最後に上野駅へ行き、北陸中日新聞向けの版下を「チッキ」と呼ばれる託送手荷物の窓口に預けた。翌朝に着くブルートレインで運ぶのである。

デジタル化が進んだいまはネットのやりとりで完結できるであろうことも、すべて手作業でやる必要があった。一つひとつに人との関わりがあり、対面があり、目には見えない手間が「情報」を生み出し、裏打ちしていた。

新聞の募集広告をたまたま見かけて縁ができた会社にて定年の年までお世話になり、東海エリアがライフワークのひとつになるとは思ってもいなかった。新聞のありようも、街や社会のありようも大きく様変わりしてきたが、長年の取材で学んだものを要約すれば、人を大切にするこの地域の特徴こそ、いまの日本にいちばん求められているということになる。

長らくのご愛読、ありがとうございました。

01 中日新聞(三重版)朝刊 | 過去・現在・未来の「交通」について考えるきっかけに 伊勢志摩G7交通大臣会合開催直前特集

〈 広告三部 三重アドセンター 野本 将史 〉

6月16日から18日の期間にG7交通大臣会合が伊勢志摩で開催され、G7各国の交通大臣が今後の交通や、ひいては社会全体を左右する重要なテーマについて議論しました。

2016年に行われた伊勢志摩サミットと同様、三重県全体として今年の最も大きなトピックスの一つです。

三重アドセンターでは開催にあたり、三重総局協力のもと、センター版4ページ特集を展開しました。記事部分では、過去・現在・未来の交通について掲載し、広告スペースでは、ディーラーやタクシー、バス会社など、多くの地元の交通業界の企業にご協賛いただき、統一感のある記念紙面を読者に届けることができました。

今後も地元の読者に素敵な紙面を届けられるよう、クライアントのプロモーション活動の一助となれるように努めてまいります。



三重版
センター版
4ページ特集

地元交通業界の
企業様からの広告協賛



中日新聞(三重版) 2023年6月15日朝刊

02 中日新聞(岐阜版、市民版、尾張版)朝刊 | 2024年4月1日から相続登記義務化 未来につなぐ相続登記特集

〈 岐阜支社 広告部 長谷川 さや / 名古屋本社 広告三部 高橋 ゆい 〉

2024年4月1日から、相続登記の申請が義務化されます。今回の制度改正により、これまで放置していた土地が大きく動く機会がうまれると考えました。そこで、施行までの1年間、不動産業種をメインセールス先とした「未来につなぐ相続登記特集」を企画し、市民・尾張版とテーマを共有しながら、特集を実施しました。特集内のカットでは、所有者不明土地が起こすトラブルや、来年の相続登記義務化に向けた法務省の動きをまとめるなど、読み物としても充実させました。

5月掲載(岐阜版)を第1弾とし、これからのお盆時期や、年末年始など、人が集うタイミングを狙い、来年の4月まで連載ものとして継続していく予定です。また、紙面の展開だけではなく、「未来につなぐ相続登記特集」のWEBページを作るなど、ボリュームを大きくしながら進めていきたいと思います。今回の相続登記義務化に限らず、今後も制度改正の情報にアンテナを張りながら、セールスチャンスを見つけていきたいと思います。

地元不動産会社様からの広告協賛



中日新聞(岐阜版) 2023年5月27日朝刊 15版



中日新聞(尾張版) 2023年6月2日朝刊 15版



中日新聞(市民版) 2023年7月14日朝刊 15版

「家康さんぽ」企画

〈名古屋本社 広告三部 三河アドセンター 竹尾 光貴〉

大河ドラマで盛り上がりを見せる岡崎を舞台に、夏休みに大河ドラマ館への来場を促すきっかけとしてデジタルスタンプラリーである「家康さんぽ」を企画しました。

5月に本版で実施した「さかえさんぽ」を参考に、大河ドラマの流れも見ながら家康公ゆかりの神社仏閣など、さんぽ可能な範囲でチェックポイントを設定。賞品は目玉として3万円分のギフトカードのほか、八丁味噌や地元の飲食店からも多くの協力を

いただき魅力的なラインナップを実現できました。

また、少しでも参加してもらいやすくするため特集や告知広告にもチェックポイントのスタンプを読み取れるよう工夫。そのかいもあって参加者数の押し上げにつながったと感じています。

イベントは8月15日まで行っていますので、参加されていない方もまだ間に合いますよ！

豪華賞品が
当たるデジタル
スタンプラリーを
開催！



中日新聞 2023年7月14日朝刊



チェックポイントでスマホをかざしてデジタルスタンプラリーを集めます。



「家康さんぽ」の
WEBは
こちらから



「能登空港開港20周年」特集

〈北陸本社 広告部 伊藤 敦〉

能登半島と首都圏を結ぶ空の玄関口として開港した「のと里山空港」が、7月7日開港20周年を迎えました。多くの観光客や帰省客が降り立ち、この20年で延べ利用者は270万人を超えています。しかし、近年は新型コロナ禍で利用客が減少しており、観光需要の回復とともに利用者の増加も期待されています。年々減少する地元利用の割合を少しでも高めることができるよう北陸中日新聞で特集を掲載しました。

10周年と同様に編集局で特集を制作、紙面広告の集稿に

実績企業をあたりましたが、地元の金融機関は5月の奥能登地震の復興で広報予算の捻出が困難とのこと。それならば小粋の集稿を増やせるようにとローラー営業を実施、結果的に名刺以外のクライアント数で10件→16件と増加に成功、紙面も賑やかなものとなりました。本特集を経て、新聞広告営業の原点を思い出しました。一方で、1日のみの掲載である新聞において、より効果を生み出す仕組み作りに知恵を絞る必要があると感じました。

「能登空港開港20周年」特集



北陸中日新聞 2023年7月7日朝刊



旅行機運が高まり
10年前より地元企業の広告出稿増加！

01 婦人之友社×東京すくすくがコラボ
子育てすくすくフェス

東京本社 出版エンターテインメント広告部 高橋 郁子



東京新聞 2023年5月3日朝刊 子育てすくすくフェス イベント告知5段



会場後方の
子どもを
遊ばせながら
参加できる
スペース

加瀬健太郎さん
×
菊池亜希子さん
子育てトークショー



イベントの
様子は
こちらから

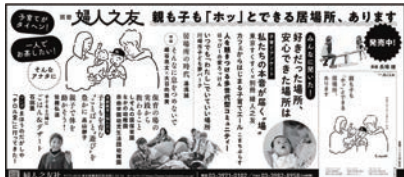


東京新聞 2023年6月27日朝刊

【参加者の声】 ※一部抜粋

- 子どもが出歩いたり、話したりしても全然大丈夫、という雰囲気がとても気楽でありがたかったです。スタッフの方々も話しかけたりして下さり、息子も「楽しかった」と言っていました。またこのような機会があればぜひ参加したいです。
- スタッフの方が皆さん親切で、施設も綺麗で子どもファーストand目線なのが助かりました。菊池さんのファンなので、今日は目の前でお話が聞けて、貴重な機会になりました。また、参加者へのプレゼントが凄くて驚きでした。
- ママ友さんにお誘いいただいてイベントを知りました。とても救われた気持ちで、心が元気になった素敵な時間となりました。参加させていただきありがとうございました！

創業から120年を迎えた婦人之友社。読者の高齢化が進み、若い世代を取り込みたい、と新聞社と同じ悩みを抱えていました。2022年に休刊したファミリーマガジン「かぞくのじかん」に、熱い思いを残したままにいることも、日々の打ち合わせから実感。そんな中、「月刊婦人之友」の「別冊」を不定期で新たに刊行することが決まり、その第1弾が「子育て」をテーマとした特集とのこと。発売記念として以前から注目いただいていた東京新聞の子育て情報サイト「東京すくすく」と婦人之友社の編集部でも話がまとまり、「別冊婦人之友」と「東京すくすく」のコラボが実現することになりました。両媒体の記事では共同で実施した子育てアンケートの結果を掲載。本音の声を届けました。イベントは「ほっとして笑えるひとときを一緒に」をサブタイトルに、写真家で東京新聞でも子育てコラムを連載中の加瀬健太郎さんとモデルの菊池亜希子さんのスペシャルトークや、盲目のピアニスト、大石亜矢子さんの弾き語りなどを実施。親子で楽しめるワークショップを同時開催したことで、自由に過ごせる空間を作りました。開催時間に遅れて参加される方も多く、乳幼児連れでの親子参加イベントへの課題も見つかりました。歩み出したばかりで手探りですが、出版社とコラボしたイベントをまた実施していきたいと思います。



東京新聞 2023年5月17日朝刊 別冊婦人之友 5段



東京新聞 2023年5月9日朝刊 東京すくすく併載



別冊 婦人之友 2023年6月1日 発行

子育て
アンケートを
共同で実施

別冊
婦人之友
×
東京すくすく



ナゴヤ愛はどこにある？

第15回 愛知のスーパーお母さん、参上！

社会福祉法人愛知県母子寡婦福祉連合会理事長 兼 愛知母子・父子福祉センター長、というスゴイ肩書を持つ山本廣枝さん。愛知県内の「ひとり親家庭」支援のため、日々精力的に活動しています。

廣枝さん自身も40歳で夫を亡くし、二人の子どもを育てた元ひとり親。自身の経験からも、ひとり親家庭が直面する困難を理解し共感します。

廣枝さんたちの支援活動は多岐にわたります。その軸にあるのは、社会問題ともなっている「ひとり親家庭の貧困」。

「ひとり親家庭のお母さんたちは、非正規の不安定な職に就いていることが多く、コロナ禍など経営が悪化した際には真っ先に解雇の対象になります。スキルを身につけ、安定した職についてもらうために、職業訓練や就職支援活動を通じて、経済的に自立するための手助けをおこなっています」と廣枝さん。

連合会には、地域企業や団体などから毎日のように支援の品が届きます。想いのこもった品は箱に詰められ「スマイルBOX」としてひとり親家庭へ。生活が困窮する母子にとっては「笑顔の元」であると同時に、まさに命綱です。

離婚後に養育費などを受け取れずにいる女性のために、法的なアドバイスやサポートにも力を入れています。連合会の顧問である、7人のベテラン女性弁護士はたのもしい味方。法的な権利により適切な支援を受けられるよう尽力します。

金銭的な支援だけでなく、心のケアも欠かさずおこないます。離別死別を経たひとり親は、精神的に不安定になりがちです。親の不安は子どもに伝わります。廣枝さんは「親御さんの笑顔は子どもにとって何よりの精神安定剤。ひとり親の親御さんが笑顔でいられるように、気持ちに寄り添うことを心がけています」と話します。

月イチ開催の「金山にぎわいマルシェ」では、ひとり親家庭のフードパントリー & 無料相



▲山本廣枝さんと児童虐待 /DV防止
オレンジ＆バイオレットリボンツリー



▲たくさんの支援が笑顔になる「スマイルBOX」



談会をおこない、ひとり親の悩みに熱心に耳を傾けます。

「ひとり親家庭では、経済的にも時間的にも余裕のないことが多く、子どもの体験できることが限られてしまいます」

子どもたちに豊かな体験の機会を持ってもらうため、企業などの協力のもと職業体験やスポーツ観戦などの機会を設けています。

中日ドラゴンズの太田雄大投手は、バンテリンドームナゴヤで開催される試合にひとり親家庭の親子を招待する「太田雄大招待プロジェクト」を実施。2023年で7年目を迎えました。

廣枝さんは子どもたちのために、ときには戦隊ヒーローに変身したり一緒に田植えをしたり。この取材にあわせてご用意くださった連合会のぶ厚いパワー資料も廣枝さん自ら作成。

「一体いつ寝ているんですか？」と聞きたくなるほど、小柄な身体からは想像がつかないパワフルな廣枝さん。

廣枝さんを「愛知のお母さん」と慕う人は数知れず。

信念を持って活動する廣枝さんの存在そのものが、ひとり親家庭の希望の光なのです。

イラストレーター&文筆家&漫画家
陽菜 ひよ子 Hina Hiyoko

愛知県清須市生まれ。3歳より名古屋市在住。関西に2年、関東に14年住んだのちUターン。2006年『やさしい写仏めり絵帖』（ダイヤモンド社）、2015年『アトピーの夫と暮らしています』（PHP研究所）を出版。イラスト実績はNHKテレビ番組・書籍・広告・新聞小説・自治体・イラスト講師など多数。

ナゴヤの街に溢れる、面白ネタはいくらもある

好評発売中！
『ナゴヤ愛 地元民も知らないスゴイ魅力』（秀和システム）

締切	10月分	11月分	12月分
第1次 前々月 20日	8/ 18 (金)	9/ 20 (水)	10/ 20 (金)
第2次 前月 10日	9/ 8 (金)	10/ 10 (火)	11/ 10 (金)
第3次 前月 20日	9/ 20 (水)	10/ 20 (金)	11/ 20 (月)
特定面 前月 5日	9/ 5 (火)	10/ 5 (木)	11/ 2 (木)

※当該日が土日祝の場合は繰り上げた営業日となります。